

伊勢原市第5次総合計画 後期基本計画 施策評価委員会
【第2分科会 第3回会議】 会議録

〔期 間〕 令和3年1月13日(水)～1月22日(金)

〔方 法〕 書面開催

〔出席者〕

〈委員〉

安 藤 隆 幸

柴 田 明 彦

土 井 文 平

大 高 利 夫

種 村 公 利

〔内 容〕

- 1 施策の評価について ※ 意見、評価は別紙のとおり
施策27： 交流がひろがる拠点の形成
施策28： 個性と魅力あふれるまちづくりの推進
施策29： 快適で親しみのある地域づくりの推進
施策30： 自然共生社会の構築
施策31： 低炭素・循環型社会の構築
施策32： 地域公共交通の充実
施策33： 安全な交通環境の整備

施策		27：交流がひろがる拠点の形成					分科会の評価	
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果						
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10		
①	主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B	B	B	C	B	B
②	事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	A	B	B	C	A	B
③	市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	A	B	B	B	B
④	施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	A	A	A	A	A
⑤	施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 本格的見直し	A	A	A	B	A	A

<p>施策に対する 総合的な評価</p>	<p>①指標の達成状況。 概ね順調に進捗していると評価できる。</p> <p>②事業の構成 伊勢原駅北口は南口と違い、大山阿夫利神社参拝客、大山登山客を迎える重要な位置づけとなっていることを鑑みると本施策は一本柱となる。北口周辺地区整備一点集中で総てのリソースを投下するべきだと考える。構成に過不足ないと判断する。</p> <p>③市民意識の反映 満足度、重要度ともに微増している点から概ね反映していると評価できる。しかし住民の生活満足度を高めるには駅周辺の賑わい再生など課題が山積している。</p> <p>④課題認識 北口駅周辺の老朽化した建物は著しく景観を損ねている。地権問題等出来る限り早くコンセンサスを取り付け再開発に着手しなくてはならない。一方、本施策遂行で利害が一致する小田急、神奈中バスなどと協働する推進体制を形成することも喫緊の課題だと考える。</p> <p>⑤方向性 新東名高速道路、国道246号バイパスの開通に伴う新たな都市の活力を創造する街づくりは追い風状態だと受け止め、むしろ“逆風下”にある伊勢原駅北口周辺開発に傾注してもよいのではないだろうか。</p> <p>⑥総合的な評価 日本遺産など観光の玄関口として伊勢原駅北口周辺の再開発を急がないと、リピーターの増加は見込めない。ポストコロナ時代のキーワードの一つが自然回帰だと考える中、豊かな自然環境に恵まれた同市はグレートウエイの再構築が最重要課題だと確信する。その意味合いからも本施策の重要性は極めて高い。</p>	<p>※ 会議が中止になったことで①～⑤の評価理由を記述した。(全施策)</p> <p>①達成度だけを見ると遅れているが、一つひとつ課題解決し、目標に至るまでのプロセスができていくとの判断からBとした。</p> <p>②事業内容が長期間にわたるものであるため、おおむね妥当と判断しBとした。</p> <p>③最終的にどのような整備がされるのかなど、市民にとっては詳細が明確でないが、玄関口の整備は強い要望がある。このことからおおむね反映されていると判断しBとした。</p> <p>④高山市長3期目の公約の一つにも掲げられていることや事業推進のためには関係権利者の協力が必要であることなどからAとした。</p> <p>⑤継続して実施すべき施策であるが、人員の増や予算を拡大しないと計画通り進まないためAとした。</p> <p>【総合的な評価】 ・25年以上も停滞している事業であり、これまでも整備手法について様々な検討が行われてきた。</p> <p>・長年課題であった駅前ビルも職員らの努力で整理でき、また整備手法も固まったことで財政難の時期ではあるが、遅れることなく計画どおり進めていただきたい。</p>	<p>①主な指標については現段階で大きな進捗は見られないが、暫定バス乗降場の整備や再開発事業の事業成立の検証作業等が進められており、概ね進捗していると評価した。 ※指標以外の進捗状況(事業検証作業概要)およびR4見込100%の根拠についてご説明いただきたい。</p> <p>②交流が広がる拠点としての伊勢原駅周辺の整備は市の最重要課題であり、北口周辺地区整備事業を軸とした事業の構成は概ね妥当である。 ※再開発事業の事業内容については、他施策との連携(コンセプトへの反映)を図る必要がある。</p> <p>③市民意識調査で満足度は平均値は下回っているが満足度、重要度ともに増加しており、市民意識の反映について一定の評価ができる。</p> <p>④市の玄関口である伊勢原駅周辺整備に対する期待と要望は大きく、事業を進捗させるために関係権利者に対する事業成立の実現性に対する不安解消が必須であるとの課題の捉え方は的確である。</p> <p>⑤本施策については、他施策(観光等の産業振興施策、住み続けたいまちづくり等)との関連性も強く、事業成立が確認できたのであれば、早期の事業化が望まれる。 ※早期の事業化を進める際に現状の経営資源配分に対応できるかの確認が必要だが、他施策と比較した場合、重要度が高いため拡大して実施とした。</p>	<p>①主な指標の達成状況については、難しい事業であり、事業の進捗が感じられない。</p> <p>②事業の構成に関する評価について、事業認可が出来ず、事業が進んでいない。事業を進めるための対策が必要ではないか？</p> <p>③市民意識の反映 満足度重要度ともに向上し住民の事業に対する期待が感じられる。</p> <p>④施策推進上の課題の捉え方 的確に課題を認識している。</p> <p>⑤施策の方向性 B 継続実施 駅前再整備の大変さは、どこの自治体においても苦戦している。駅の利用者と地権者との意見をまとめることの難しさを実感している。交通体系の整備、商店街の活性化において、伊勢原市として大きなビジョンが必要ではないか？</p>	<p>この事業は、市の永年の懸案事業であるとともに、かねてより市民からも観光の玄関口として早期整備が求められている。民間の開発業者と権利関係等との共有理解のもと再開発事業の取組みが確認され、一方暫定バス乗降場が整備された事からも概ね順調に進捗していると思われる。</p> <p>*「基本計画」の中で、再開発事業に着手したが平成16年3月に中止となり、その後、新たな事業による整備を進めているとのことですが、その経緯等の具体的な説明をお願いします。</p> <p>事業構成は、民間活力活用として民間事業者を導入し、権利関係者との調整等の取り組みは適切になされている。</p> <p>この事業に対しては、市民からの観光の玄関口として期待と早期実現への要望の中で、暫定バス乗降場が整備され目に見える形で動き始めたことに、改めて市民意識も高まってきているものと思われる。</p> <p>再開発事業として、多くの課題がある中、早期に事業化に向けての一層の取り組みを期待している。</p>
---------------------------------	--	--	---	--	--

施策		28：個性と魅力あられるまちづくりの推進					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	A	A	A	A	A	A
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	A	A	A	A	A	A
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	A	A	A	A	A	A
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	A	A	A	A	A
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	A	A

<p>施策に対する 総合的な評価</p>	<p>①指標の達成状況。 景観写真展、景観まちづくりシンポジウム開催など指標達成は順調に進捗していると評価できる。</p> <p>②事業の構成 市民参加型の事業構成に過不足ない。一方で現在進行している事業を年齢や属性の「階層別展開」といった改善策を取り込むことで、より重層的な広がりが期待できるのではないだろうか。</p> <p>③市民意識の反映 満足度、重要度ともに微増したためCゾーンに移行したが、『施策27』同様に重要度の高いAゾーンに引き上げるべく、更なる啓蒙普及活動が必要だと考える。</p> <p>④課題認識 本施策目標に掲げた「様々な主体との協働」に関して、伊勢原市のステークホルダー全域に向け、更なる参画を促す意識を高めるべきだと考える。特「学」において幼稚園・保育園、小中高校そして大学まで巻き込む必要がある。合わせて本施策を発信する「装置」を創出する必要がある。</p> <p>⑤方向性 市民の意識レベルが向上しているタイミングを有効活用しなくてはならない。定住・交流・関係人口の増加を狙うためにも、市民に対する啓蒙普及活動「第2段階」に着手すべきだと考える。</p> <p>⑥総合的な評価 概ね良好と評価する。本施策の主人公は市民。④で記述した通り、伊勢原市のあらゆるステークホルダーと市民を結合させることに尽きる。</p>	<p>①指標の実績・見込から順調に進んでいると判断し、Aとした。 Q：取り組んだ市民の数は増加しているが、事業の数も増加しているのか？</p> <p>②目標達成状況からAとした。</p> <p>③市民の満足度が高い評価を受けていることからAとした。</p> <p>④内部評価に記載されていることは的確であることからAとしました。特に事業者に対する周知・啓発がさらに必要と考える。</p> <p>⑤条例の制定、計画の策定がされたことから今後もこれに沿って良好な景観づくりを継続していただきたい。</p> <p>【総合的な評価】 ・駅前は、鉄道の玄関口であり、いせはら大山 C周辺は、道路の玄関口であることから、市民意見にもあるように駅前～大山までの景観を守り、また活かすことが大切と考える。</p> <p>・市の南地域（特に大田地区）においては、雑種地が多く一部で良好な景観ではない区域もあります。市内全域で良好な景観を作れるようにしていただきたい。その為にも評価項目④で記載したとおり、事業者に対してはよく周知・啓発していただきたい。</p>	<p>①全ての指標で目標を上回る若しくは上回る見込みであり、達成状況については順調に進捗していると評価した。</p> <p>②構成する主な事業について目標を上回る実績があり、事業の構成は適切であると評価した。</p> <p>③市民意識調査では、重要度は平均値を下回っているものの、満足度、重要度ともに大幅に増加している。市民参加型のシンポジウムの継続実施等により地域全体の魅力アップの必要性の理解が高まり、市民意識そのものも変化しつつあると考えられ、高く評価できる。</p> <p>④伊勢原大山インターチェンジの開通等により産業系市街地整備が進む中、伊勢原市の魅力である歴史や文化に裏付けられた個性を大切にすることを認識し、景観まちづくりを課題としており、課題の捉え方は的確である。</p> <p>⑤本施策は伊勢原市の魅力アップにとって重要な施策であり、引き続き取り組むことが望まれる。 ※景観まちづくりでは、市民の理解および意識向上が重要であり、引き続き市民参加型（シンポジウム等）の取り組みが有効と考える。</p>	<p>①主な指標の達成状況については、順調に参加者が増加している。 ②事業の構成に関する評価について、協議件数は増加しているが、（累計）ですか？単年度の件数ではないですか？ みんなが思った景観の件数とは何ですか？</p> <p>③市民意識の反映 満足度重要度ともに向上している。伊勢原の景観に期待する意見がある。</p> <p>④施策推進上の課題の捉え方が的確に課題を認識しています。</p> <p>⑤施策の方向性 B 継続実施</p>	<p>指標の達成状況は、景観関連イベントの市民参加が着実に増加していることから順調な進捗と思う。</p> <p>事業の構成は、市の景観計画や景観法及び景観条例に基づいて適切な構成である。</p> <p>市民参加型事業の継続実施を通して、施策への市民満足度や重要度も高まってきていることは、市民意識が反映されているものと思われま。</p> <p>施策の課題としては、新しい市街地の形成や大山地区の歴史・文化の景観と魅力づくり等を取り上げている。</p> <p>今後も観光や賑わい等の面からも魅力ある街づくり推進を展開していただきたい。</p>
---------------------------------	---	---	---	--	--

施策 29：快適で親しみのある地域づくりの推進

評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	A	B	B	B	B	B
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	A	A	B	B	A	A
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	A	B	B	B	B	B
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	B	A	A	A	A
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	B	B

<p>施策に対する総合的な評価</p>	<p>①指標の達成状況。 地域まちづくりの参加者数増加、不法投棄物回収量の減少に見られる点からも順調に進捗していると評価できる。</p> <p>②事業の構成 本施策を構成する3事業に過不足はない。各事業の進捗状況の「数値化」「可視化」できるような工夫が施されれば申し分ない。</p> <p>③市民意識の反映 本施策に対する市民意識は2極化しているのではないだろうか。意識レベルの低い市民にむけた啓蒙普及活動の実践が急務な課題だと考える。</p> <p>④課題認識 本施策は市民主導、地域主体型という性質上、それぞれの活動における自治権を付与することが大切だと考える。「点」を「ドット」にして「伊勢原市全体という面」に拡げるためにも、各事業リーダーの水平展開（スクラム展開）も考えていく必要がある。</p> <p>⑤方向性 公園美化活動推進事業に関しては、ポストコロナ時代を見据えた新たな公園利活用を追加検討事項に掲げる必要があるのではないだろうか。</p> <p>⑥総合的な評価 市民の美化意識が向上している点は大変評価できる。そのような状況下で、ニューノーマルな生活意識を提言できれば本施策は申し分ない。</p>	<p>①指標の達成状況から概ね進んでいることからBとした。 Q：指標の「地域まちづくりへの参加者数」とはどのような事業への参加者なのか？ Q：指標の不法投棄物回収量の「目標の方向」が「\」となっている理由は何？</p> <p>②目標達成状況からAとした。</p> <p>③市民の重要度、満足度は共に微減で中間値である。内部評価と併せて概ね反映していると判断し、Bとした。</p> <p>④いろいろな面で市民参加が増えてきたことで以前に比べると生活環境は良くなったと思う。しかし家庭ごみも有料化など課題があると思います。このことからBとした。</p> <p>⑤生活環境を良くするため継続して取り組むべき施策であることからBとした。</p> <p>【総合的な評価】 ・生活環境の良化は快適なまちづくりにもつながります。その為にも市民一人ひとりが意識をもって取り組むことが大切であり、そのための事業をさらに進めていただきたい。</p>	<p>①主な指標で着実に改善が見られており、概ね進捗していると評価した。 Q：指標の「公共空間における美化推進の取組は、企業や学校など様々な主体の活躍の場として・・・」とあるが具体的な内容および近年の変化が分かる定量的な指標（回数等）があればご説明いただきたい。</p> <p>②構成する主な事業については概ね目標に近い実績となっており有効性が確認できるため、事業の構成は概ね適切であると評価した。</p> <p>③市民意識調査では、満足度、重要度ともに平均程度であり、市民意識は概ね反映されている。引き続き、市民意識の醸成を進める必要がある。</p> <p>④地域づくりの担い手不足に対し「関係人口」を巻き込みオープンスペースを活性化を進めるといった課題および解決の方向性の捉え方は適切である。</p> <p>⑤施策28と同様に、市民の理解および意識向上が重要であり、継続的に取り組むことが望まれる。 ※監視カメラの設置等においては、市運営のデジタル化の1つの施策として、他の施策（安全、施設管理他）も動かし、効果的かつ効率的なシステム導入が必要と考える。</p>	<p>①主な指標の達成状況として、令和2年度の数値はコロナ禍において期待できる。不法投棄回収量の減少も見られる。</p> <p>②事業の構成に関する評価 推進事業の数値は一定数増加している。（見込みの100人？）</p> <p>③市民意識の反映については、満足度と重要度については変化が少ない。意見のある利用者の声にあるように、快適なまちづくりに期待されている。</p> <p>④施策推進上の課題の捉え方 市民との共同が大切であり、行政がそれを支える施策が求められている。</p> <p>⑤施策の方向性について B 継続実施 不法投棄に対する効果があった監視カメラの設置に対する事業の記載がなかった。</p>	<p>事業の達成状況は、主要指標の達成度から見ると概ね順調な進捗と思われる。</p> <p>施策は、地域街づくり推進、ゴミ等美化活動、公園美化活動の三本の柱の適切な事業構成で推進されている。</p> <p>市民意識調査では、満足度や重要度がやや低下しているが、街の美化やごみへの市民の関心は引き続き高い。</p> <p>人口減少や高齢化により地域づくりの担い手不足が顕著になり、また、都市化の中で公園や広場等の重要性を的確に課題として捉えている。</p> <p>市のごみ処理に関わる条例が施行されたことにより引き続き快適なまちづくり推進に取り組んで頂きたい。</p>
----------------------------	---	--	---	--	---

施策		30：自然共生社会の構築					
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					分科会の評価
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B	A	A	A	B	A
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	B	B	B	C	A	B
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	B	B	B	A	B
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	A	B	B	B	A	B
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	B	B

<p>施策に対する総合的な評価</p>	<p>①指標の達成状況。 順調に進捗していると評価できる。</p> <p>②事業の構成 本施策の目的に「人と自然が共生できる地域づくりを推進」と掲げている中、ウイルスも自然環境の一部と捉え、ポストコロナ時代に向けた環境学習・啓発推進事業を付加する必要があるのではないだろうか。</p> <p>③市民意識の反映 満足度、重要度ともに微増している点から概ね反映していると評価できる。</p> <p>④課題認識 本施策はハードとソフトの2面展開となる。ソフト面での展開においては、他施策でも記述したが、幼保、小中高、大学に至るまでのクラスター別ポストコロナ時代の環境教育を再構築することが喫緊の課題と考える。</p> <p>⑤方向性 非接触型コミュニケーションの比重が高まる中、啓蒙普及活動の展開方法を再検討する必要がある。</p> <p>⑥総合的な評価 概ね良好と評価する。付け加えるならば、満足度と重要度相関図において、ほぼ中央のポジションとなっているが、本施策の重要度を高めるために市民へ更なる働きかけが必要だと考える。</p>	<p>①指標の実績・見込から順調に進んでいると判断し、Aとした。</p> <p>②目標達成状況は「○」ではなく「△」と判断し、Bとした。 Q：環境学習・啓発推進事業と生活系雑排水対策事業は共に目標値を下回っているため「○」ではなく「△」ではないか？「○」にした理由があるのか？</p> <p>③市民の満足度・重要度ともに前回より微増していることからBとした。</p> <p>④この施策の方針は「生態系や緑の保全・・・」と「河川水質の向上・・・」の2つあるが、内部評価は「河川水質の向上」だけである。このことからBにした。</p> <p>⑤地道な取り組みであるが、継続することが一番大事なことと考える。このことからBとした。</p> <p>【総合的な評価】 ・環境学習については、子供から大人までを対象に取組んでいることは良いことだと思う。イベントや事業を通じて広く市民に、そして継続して啓発していただきたい。 ・河川水質の良化には、様々な要素があるため長い時間をかけて取り組む必要がある。その成果が以前と比較するとだいぶより良くなってきたと思う。地道な取り組みが成果となる。</p>	<p>①主な指標は全て目標を上回っており、達成状況については順調に進捗していると評価した。</p> <p>②構成する主な事業については着実に進捗しており、また成果も出ていることから、事業の構成は概ね妥当であると評価した。</p> <p>③市民意識調査では、重要度が若干平均値を下回っているものの、満足度、重要度ともに増加していることから、市民意識を概ね反映していると評価した。</p> <p>④事業推進上の課題欄の記載内容（浄化槽の適正な維持管理）からは、課題が明確に読み取れなかったため、課題の捉え方に一部不足が見られると評価とした。 ※本施策の推進における課題（市民意識？）について、もう少しご説明いただきたい。</p> <p>⑤啓発活動および河川水質の向上事業は、継続的に取り組むことが望まれる。</p>	<p>①主な指標の達成状況として、令和2年度の数値は出ていないが、参加者の増加は期待できる。河川の数値は指標としては疑問がある。</p> <p>②事業の構成に関する評価 推進事業の回数の減はしかたないが、浄化槽設置基数が毎年数値が近いのは、予算上限に達しているからなのか？市内での普及割合などの増が指標として適しているのではないか？</p> <p>③市民意識の反映については、満足度と重要度は増加しているが、意見にある利用者の声にあるように、伊勢原市の豊かな自然を守ることも大切であると思う。</p> <p>④施策推進上の課題の捉え方 環境変化については、事業の実施における課題であり、施策に対する環境変化ではない。課題としては、維持管理も大切な課題であるが、環境の変化に対してどうするかが必要ではないか</p> <p>⑤施策の方向性については、B 継続実施であるが、豊かな自然を守る事業も考えてほしい。</p>	<p>施策の成果を測る指標の推移からみて、施策は順調に進捗しているものと思われる。</p> <p>事業の構成：子供から大人に至る自然共生の必要性の啓発活動や河川水質汚濁防止事業は適切である。</p> <p>市民意識反映：市民の満足度や重要性は前回よりも増加しているため反映されているものと思われる。</p> <p>課題の捉え方：イベント等の啓発活動と河川水質向上に向けたソフト・ハードの両面から施策を進めている。</p> <p>今後の施策の方向性：市内でまだ下水道の整備計画のない地域があるので、引き続きこれらの施策を進めていく必要があると思われる。</p>
----------------------------	--	---	---	--	---

施策		31：低炭素・循環型社会の構築					分科会の評価
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B		A	A	A	A
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	C	B	B	B	A	B
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	B	B	B	B	B
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	B	B	A	B	A	B
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	A	B	A	A	A

施策に対する 総合的な評価	<p>①指標の達成状況。 概ね順調に進捗していると評価できる。</p> <p>②事業の構成 施策名に「循環型」を掲げる以上は、現状の2事業に「ゼロエミッション事業」「エコタウン事業」を加えるべきだと考える。</p> <p>③市民意識の反映 満足度、重要度ともに微増している点から市民意識は概ね反映していると評価できる。</p> <p>④課題認識 意識レベルは高い。</p> <p>⑤方向性 ②で先述したが、ゼロエミッション事例を広く紹介しながら、より現実化した循環型社会の啓蒙普及活動を推進すべき。先進的な事例（国、エリア、企業など）は国内外幅広く集めることが必要不可欠。</p> <p>⑥総合的な評価 追加事項を検討いただき、『循環型モデル都市・伊勢原市』としてリブランディングされることを望む。</p>	<p>①両指標共にR2、R4の見込み値が「-」であるため評価できない。H30、R1の実績からはAと判断される。 Q：R2、R4の見込み値がないのに、なぜ内部評価はAなのか？ Q：目標の方向が共に「\」となっているが理由は？</p> <p>②目標達成状況はR1の実績は目標に対して共に達成していない。何らかの理由があると思われることから「△」R2もきめて判断し、Bとした。</p> <p>③市民の意識は上がっています。内部評価のとおりBとした。</p> <p>④家庭ごみも大きな課題と捉えます。ごみステーションの散乱（特に自治会未加入場所）、有料化はあわせて考えていく必要がある。このことからBとした。</p> <p>⑤課題解決するため拡大して実施すべきとの判断からAとした。</p> <p>【総合的な評価】 ・温暖化防止対策は国の施策に沿いながら進めていただくことと事業者と連携を図りながら取り組んでいただきたい。 ・ごみの減量化、資源化は市民意識の問題でもありますが、方向性は行政が進めていくべきと考える。有料化については賛否両論あると思う。減量化だけでなく市民の公平性など課題を洗い出し進めていただきたい。</p>	<p>①主な指標は目標に向け確実に推移しており、達成状況については順調に進捗していると評価した。</p> <p>②構成する主な事業については目標に達してはいるが成果も出ていることから、事業の構成は概ね妥当であると評価した。</p> <p>③市民意識調査では満足度、重要度ともに平均値付近であるが、増加していることから市民意識を概ね反映していると評価した。</p> <p>④本施策の課題として市民など各自の行動が深く関わるため住民への意識付けや連携の必要性を課題として認識しており、捉え方は的確である。</p> <p>⑤持続可能な社会としていくためには、本施策の需要度は高く、継続的に取り組むことが望まれる。 ※世界経済フォーラムのSDGsの認知度調査で日本は対象28ヶ国中最下位であり、本施策のみでなく他施策（自然共生等）と合わせ環境に関する教育や啓発活動に積極的に取り組む必要がある。</p>	<p>①主な指標の達成状況については、令和2年度の数値がないが、減量に成果が見られる。</p> <p>②事業の構成に関する評価については、焼却対象量が増加している。具体的な事業の内容はわからないが、市民に取り組んでもらうごみ減量化・資源化の具体的な取り組みに期待します。 推進事業の経費が、約7千万円ですか？この金額に見合った効果についてどのように感じていますか？</p> <p>③市民意識の反映 市民に環境政策の理解をもらうことは難しいと思うが、満足度重要度ともに向上している。無料でいつでも何でも捨てられるほうが、喜ばれるが、課題を理解してもらい、行政の取り組みに理解をもらうことも大切ではないか。</p> <p>④施策推進上の課題の捉え方 国というより地球の問題認識と、伊勢原ではどうか？施策に対する課題の認識が足りないように感じる。</p> <p>⑤施策の方向性 具体的な対策など、施策に対し積極的に拡大して対応してほしい。十分だから拡大ではなく、もっと力を入れて拡大してほしい。</p>	<p>今、地球温暖化の緩和を目的として温室効果ガスの削減を目指すのが世界的な課題となっている中で、市のこの事業の重要性は益々高まっている。</p> <p>主な指標の達成状況：指標の各データから見ると順調に進捗している。</p> <p>事業の構成：省エネルギー推進の市民啓発とごみ減量化・資源化推進は適切な構成と思われる。</p> <p>市民意識の反映：市民の満足度や重要度は増加している。また、ごみ問題への市民の関心は高いものがある。</p> <p>低炭素社会の実現に向けての施策は、世界的な課題と位置づけて展開しており、今後とも一層拡大展開が求められる。また、ごみ減量化等事業も資源循環型社会の実現に不可欠なものとして、引き続き拡大実施されるものと思われる。</p>
------------------	---	---	---	--	--

施策		32：地域公共交通の充実					分科会の評価
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果					
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10	
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B		B	C	B	B
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	B	A	B	B	A	A
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	A	A	B	A	A
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	B	A	A	A	A	A
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	B	B

<p>施策に対する総合的な評価</p>	<p>①指標の達成状況。 施策に掲げる2事業は概ね順調に進捗していると評価できる。</p> <p>②事業の構成 既存公共交通の充実として掲げた2事業に過不足はないと考える。</p> <p>③市民意識の反映 満足度、重要度ともに微増している点を鑑みると、市民意識は反映していると評価できる。</p> <p>④課題認識 ポストコロナ時代を見据えた施策推進がより一層重要度を増す。ICTの活用によるサービスの高付加価値施策を付加することを提言したい。</p> <p>⑤方向性 公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを推進する富山市のような先進モデルの研究と段階的導入が喫緊の課題ではないだろうか。公共交通の利用啓発として、市民の自家用車の使い方を見直し、電車やバスなどの公共交通をバランスよく使って日々の生活を豊かにするライフスタイル提言など「交通環境学習」を展開することも必要だと考える。</p> <p>⑥総合的な評価 本施策は公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進し、モデル都市伊勢原のリブランディングに結び付けポテンシャルを強く感じる。</p>	<p>①指標のR2、R4見込み数が「-」なので評価できない。H30、R1の実績からはCと判断される。 Q：目標値が現状維持に対してH30、R1は減少していますが、内部評価がBとなっている理由は？ Q：内部評価の「・・・一定水準の利用者数になりました」とはどういう意味なのか？</p> <p>②目標達成状況からAとした。</p> <p>③内部評価のとおりと判断し、Aとした。</p> <p>④課題のとらえ方は的確と判断し、Aとした。</p> <p>⑤さらに利用促進するための方策を考えていただき、継続して実施すべきと判断し、Bとした。</p> <p>【総合的な評価】 ・地域公共交通網計画に沿って市民にとって利便性が図られるような取り組みをしていただくこと、交通事業者との連携などでは進めることができないため、良く連携を図っていただきたい。 ・利用者の少ないバス路線については今後の課題であり、対策を考えていただきたい。</p>	<p>①主な指標での輸送人員は減少傾向であるが、市民満足度等を勘案し、順調に進捗していると評価した。 ※公共交通の充実の指標として、路線バスの輸送人員のみで評価することは難しく、他の指標（免許返納数の推移等）があると有効性が確認しやすい。</p> <p>②構成する主な事業については着実に実施され一定の評価もされており、事業の構成は概ね妥当であると評価した。</p> <p>③市民意識調査では満足度、重要度ともに平均値を上回り増加していることから市民意識を反映していると評価した。</p> <p>④暮らしやすいまちづくりを考えた時に移動手段の確保は重要であるが、一方で輸送人員が減る中で路線バスの維持は困難であり、新たなモビリティサービスの導入検討が必要であるとの課題の捉え方は的確である。</p> <p>⑤移動需要についてはコロナウイルスによる影響も多大であり、今後の生活様式の変化等を注視しつつ、需要に合わせた多様なサービス（オンデマンド、乗合い等）の導入についても検討を進める必要があり、継続実施とした。</p> <p>※新たなモビリティサービスの導入検討に当たっては、国や県の支援を受ける方策もある。</p>	<p>①主な指標の達成状況として、令和2年度の数値は出ていないが、輸送人員は減ってゆくものと考えられる。現状維持は難しいのではないかと。</p> <p>②事業の構成に関する評価 取り組んだ事業の評価は良いが、これが主な指標に効果があったのか疑問である。利用促進事業への参加者が利用者となるのか、ノンステップバスは、高齢者・障害者対策ではあるが、利用者の増加への貢献度はどうなのか？</p> <p>③市民意識の反映については、満足度と重要度は増加しているが、意見にある利用者の声に対応することが利用者増加への対策ではないかと。</p> <p>④施策推進上の課題の捉え方は、的確である。</p> <p>⑤施策の方向性については、短期的にはB 継続実施 であるが、利用者ニーズを考えたオンデマンド交通などの検討も必要なのではないかと。</p>	<p>施策の大きな狙いは、やはり地域公共交通の輸送力の強化かと思えます。従って路線バスの輸送人員が大きな指標と捉えて見ると、ほぼ、一定の水準を維持している状況から達成状況は概ね順調に進捗と思われる。</p> <p>事業の構成は、地域公共交通協議会の中で公共交通利用促進・啓発及び情報提供さらには、子供や高齢者の利用配慮した事業等適切な構成と思われる。</p> <p>市民意識調査から施策の満足度や重要度の評価は高いものがあり、また、コミュニティバスやバス路線の充実の要望も出ている。*コミュニティバスについて計画や事例はどうでしょうか。</p> <p>少子高齢化・人口減少の進む社会において、持続可能な公共交通ネットワークを維持していくため課題をよく捉えており今後とも継続して実施していただきたい。 *運転免許証を返納する高齢者が多くなると思いますが、その方々のバス利用促進する方策など如何でしょうか。(県警所轄ですが、自主返納サポート協議会が様々な特典を提供しているが、バス利用の特典はない)。例：神奈中バスの「かなちゃん手形」への特典など)</p>
----------------------------	---	---	--	--	--

施策		33：安全な交通環境の整備						分科会の評価
評価項目	評価結果 (1つに○)	各委員の評価結果						
		委員6	委員7	委員8	委員9	委員10		
① 主な指標の達成状況	A 順調に進捗している B 概ね順調に進捗している C 遅れている	B	A	B	B	A	B	
② 事業の構成に関する評価	A 適切な構成である B 概ね妥当である C 構成に問題がある	C	A	A	B	A	B	
③ 市民意識の反映	A 反映されている B 概ね反映されている C 反映できていない	B	B	B	B	A	B	
④ 施策推進上の課題の捉え方	A 課題の捉え方が的確である B 課題の捉え方に一部不足が見られる C 課題認識ができていない	B	A	A	B	A	A	
⑤ 施策の方向性	A 拡大して実施 B 継続実施 C 縮小して実施 D 抜本的見直し	A	B	B	B	A	A	

<p>施策に対する総合的な評価</p>	<p>①指標の達成状況。 概ね順調に進捗していると評価できる。</p> <p>②事業の構成 本施策タイトル「安全な交通環境の整備」である以上、ICTを活用した基盤整備事業を付加すべきだと考える。</p> <p>③市民意識の反映 満足度のゾーンが気になるが、市民意識は概ね反映していると評価できる。</p> <p>④課題認識 本格的な高齢化社会の到来と公共交通機関の不足している地域に暮らす人たちが、希望する時間や場所にに応じて柔軟に乗り降りできる「オンデマンド型」の乗合タクシーサービスなども視野に交通環境を見直す時期だと考える。</p> <p>⑤方向性 第一義には引き続きユニバーサルデザインを重視した環境整備を継続していただきたい。</p> <p>⑥総合的な評価 今後の高齢社会においては、「交通空白地」や「交通不便地域」であるか否かという、地域性に焦点を当てた議論だけでは問題の解決に至らない。利用者の特性、移動能力といった観点も踏まえた議論をより活発化させ、交通環境整備に取り組みなくてはならないのではないだろうか。</p>	<p>①実績・見込から順調に推進していると判断しAとした。 Q：目標の方向が共に「\」となっているが理由は？</p> <p>②目標達成状況からAとした。 Q：ヘルメット購入助成制度は計画によるとR2年度から導入とされており、その成果で60%の見込とされているが、助成件数は何件か？</p> <p>③歩行空間の整備は主な事業の目標達成状況からも順調に進んでいるが満足度は微増となっている。このことからBとした。</p> <p>④内部評価の内容からAとした。</p> <p>⑤安全安心の街づくりのためにも継続して実施すべきと判断しBとした。</p> <p>【総合的な評価】 ・自転車による事故防止や歩行者の安全確保は、警察との連携が欠かせない問題であり、そのためにも警察署、交通安全協会などと進めていただきたい。 ・ハード面では将来的には自転車専用レーンなどの設置も考慮した安全対策が必要となると思う。</p>	<p>①主な指標では道路の危険箇所数、自転車交通事故割合共に減少傾向であり、順調に進捗していると評価した。 ※安全点検の頻度や内容についてご説明いただきたい。危険箇所を事故発生前に見つけ優先順位を付けて早期に改修することは重要であり、目標値0箇所は安全点検をミスリードしないか？</p> <p>②構成する主な事業については着実に実施され一定の効果も出ていることから、事業の構成は概ね妥当であると評価した。(日頃伊勢原市内を歩いていると交通ルールやマナーに対する市民の意識が高いと感じる)</p> <p>③市民意識調査では満足度は平均値を下回っているものの、重要度・満足度共に増加していることから市民意識を概ね反映していると評価した。</p> <p>④誰もが安全で安心して暮らせるまちをつくる、また高齢者や障害者の方々も経済活動に参加する機会を確保するためには、歩行空間をより安全にする必要があるとの課題の捉え方は的確である。</p> <p>⑤歩道区間の安全の確保には、ハード面(歩道整備、バリアフリー化)や交通安全に關せうる啓発活動は必須であり、継続して実施する必要があると考える。</p>	<p>①主な指標の達成状況について内部評価では「A」となっているが、自転車の交通事故の割合が、R2見込みでは増えてしまっている。</p> <p>②事業の構成に関する評価について指標の単位が、箇所と工事延長と異なっている。同様に交通事故の割合と、ヘルメット着用率となっており、KPIとしても統一あるいは、危険箇所を優先して工事を実施するなど課題がある。</p> <p>③市民意識の反映について 満足度と重要度がわずかであるが向上している市民要望や意見に対する対応にも期待したい。</p> <p>④施策推進上の課題の捉え方について施策を取り巻く環境変化に対し、課題の捉え方が十分ではない。高齢者社会の問題だけではなく、また、自転車のルールは、社会人や親への啓発啓もうも必要なのはどうか。</p> <p>⑤施策の方向性は B 継続実施としたい。</p>	<p>指標の達成状況は、3点の指摘事項の説明から順調に進捗していると認識している。</p> <p>誰もが安全に移動可能な交通環境の整備は、歩行空間の整備や自転車のマナー啓発といったハード・ソフト面の様々な課題がある中、適切な事業構成で施策が実施されている。</p> <p>市民の意識については、重要度は高いが満足度がやや低いとされているが、施策に対する市民要望は・意見は多くそれだけ身近な問題として、市民の関心が高いものと思われる。</p> <p>施策を取り巻く環境は、内部評価に示されているように大きく変化してきており、また、市民にとっても日常欠かせない交通手段として関心が高まっており、施策は一層拡大して進めていくことが求められていると思われる。</p>
----------------------------	--	---	---	---	---